



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

平成 29 年 5 月 26 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

2017 年第 20 週
(5/15~5/21)

- 感染性胃腸炎は 4 週続けて増加しており、特に岐阜保健所管内で患者が多数報告されています。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しています。→トピックス
- 流行性耳下腺炎は、引き続き患者数の多い状態が続いています。
- 流行性角結膜炎が、岐阜市、西濃保健所管内で多数報告されています。

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ[※] 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

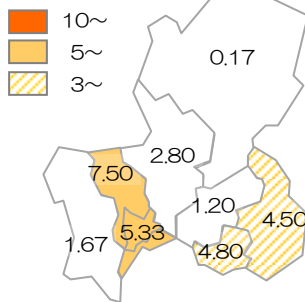
レベル	疾患名	基準	保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし		—
注意報レベル	なし		—

※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。

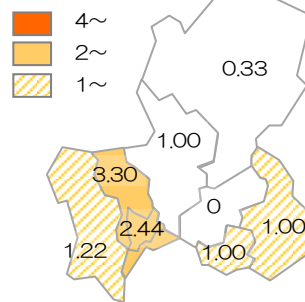
警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

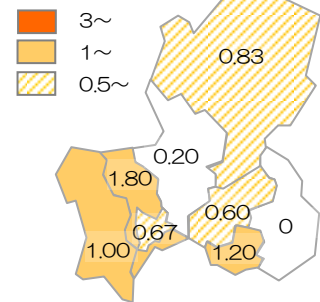
< 感染性胃腸炎 >



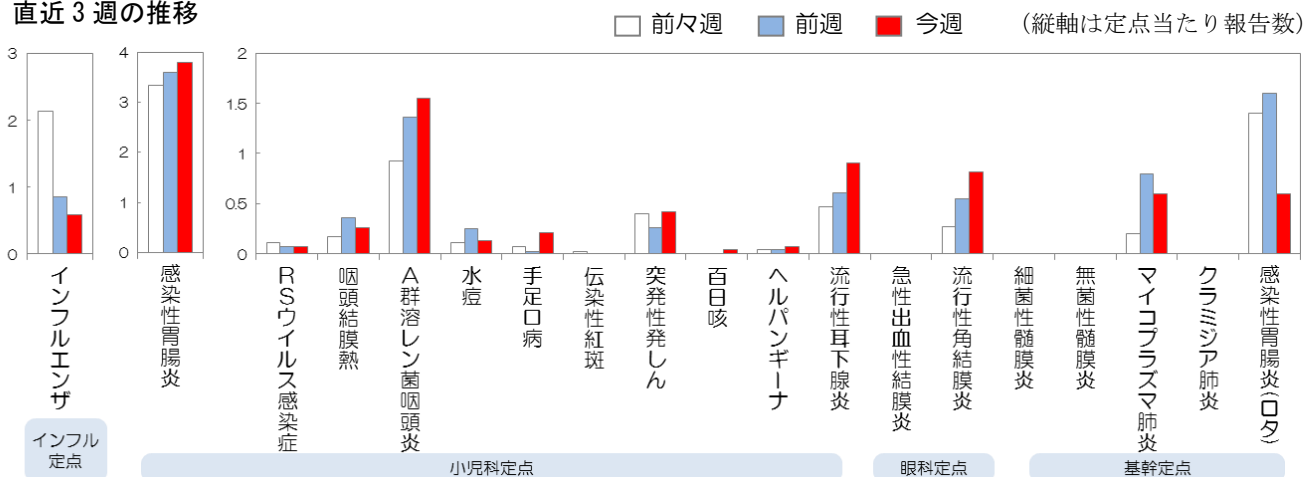
< A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >



< 流行性耳下腺炎 >



● 直近 3 週の推移



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 7 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：なし
- 5 類感染症：ウイルス性肝炎 1 例、
侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、梅毒 3 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■ トピックス

● A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

◇ 県内で患者が増加傾向です

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、小児科定点の報告対象疾患の中では比較的患者報告数の多い疾患で、年間を通じて患者がみられますが、冬期と春～初夏に増加します。

今年は、全国、県内ともに、4月下旬から患者数が増加傾向となっています。

患者は5歳をピークに幅広い年代にみられ、20歳以上の患者も報告されています（2017年第1～20週）。

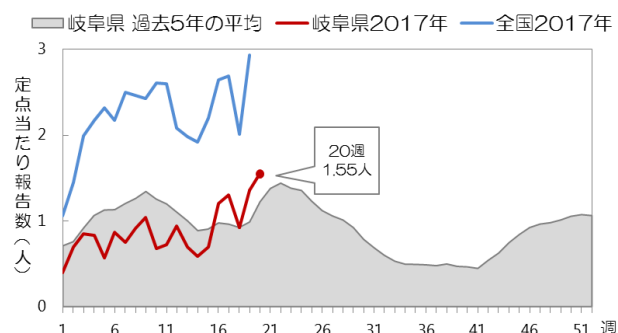
◇ 家庭や学校での予防が大切です

感染経路は飛沫感染や接触感染であり、家庭や学校など、人と人との接触の機会が多いところで感染が起きやすく、集団での感染もみられます。感染性の強い急性期では、兄弟間での感染が最も高率であるとの報告があります。

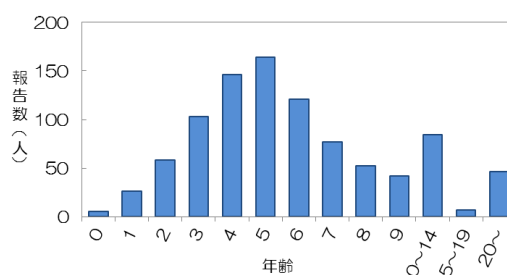
また、まれに患者が汚染した食品を介して感染することもあります。

予防には、患者との密接な接触を避け、手洗いなど一般的な予防対策を励行することが重要となります。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者 週別報告数
(岐阜県：53定点 全国：約3,100定点)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 年齢別報告数
(岐阜県：53定点 2017年1～20週 n=931)



○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症です。2～5日の潜伏期間の後、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、咽頭発赤、莓舌などの症状がみられます。しばしば嘔吐を伴います。発赤毒素に免疫がない場合、猩紅熱と呼ばれる全身症状を起こします。合併症として、肺炎、髄膜炎などの他、免疫学的機序を介したりウマチ熱、急性糸球体腎炎などを起こすことがあります。

○ 感染症法における取扱い

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（県内53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。

届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。（保健医療課 HP）

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-ki.jun.html>

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/>